

第5回 食品安全文化の可視化に関する研究会
【ブラッシュアップ・ガイダンスチーム合同ミーティング_ブラッシュアップチームミーティング】議事概要

日時:2025年12月3日 14:00~(閉会16:30)

場所:オンライン(Teams)／農林水産省共用第一会議室

次第

1. 開会挨拶・配布資料確認
 2. 第4回の振り返り
 3. 2チーム(ブラッシュアップ/ガイダンス)に分かれた意見交換
 4. 再集合後、普及活動に関する議論
 5. 事務連絡・閉会
-

情報共有

- 配布資料について(事務局)
 - 本日は「議事次第」のみ配布。追加資料はなし。
 - 研究会はハイフレックス方式で実施。
 - Teams の扱い:
 - 現在の会議はブラッシュアップチーム用。
 - ガイダンスチーム参加者は一旦退出し、別URLに接続。
 - 意見交換終了後の全体議論は再度現行Teamsに戻る。
 - 第4回振り返り
 - 幕張メッセで農林水産省と共に講演(各25分)。
 - 製造業・量販店・中小企業からの関心が高いことを確認。
 - 食品安全文化は地方中小企業にはまだ十分浸透していない状況。
 - 国内普及に向けた情報提供や協力の必要性を共有。
 - 評価項目について(ブラッシュアップチーム)
 - 評価項目は29項目に絞り込み済み。
 - No.11は引き続き保留扱い。
 - No.18・21の扱いは要再検討。
 - 3月中旬の最終報告会に向け、2月中のツール公開を目標。
-

ブラッシュアップチーム意見交換(抜粋)

- 因子名・カテゴリー整理について
 - GFSI(食品安全文化の5側面)との整合をどう扱うか議論。

- 現状：日本の製造業向けに再構成した因子（例：リソース支援、コミュニケーション、リーダーシップ等）が形成されている。
 - 議論ポイント：
 - GFSI 側面名をそのまま使うべきか？
 - 日本版ツール独自の因子名でよいのでは？
 - ただし、GFSI との関連性を説明できるマトリクスは必要。
 - ガイダンス資料に相関表（マトリクス）を掲載する案が支持された。
 - 無理に GFSI に合わせると整合が取りづらい点も指摘。
 - 海外企業（GFSI 認証取得企業）への説明可能性は確保すべき。
 - 設問と因子の対応づけ
 - 設問によって複数因子にまたがるケースがある（例：設問 26）。
 - 「私の職場」など主語の流れや文言の整合性を修正した方が良い。
 - 設問の文言の自然さと因子への整合を両立させる必要性を確認。
 - GFSI とのマッチング（両方向の照合）
 - 食品安全文化の国際基準は今後変更される可能性が高い。
 - 日本版ツールも将来更新を想定し、双方向の対応関係を整理すべき。
 - マトリクス形式で管理することが有効との意見が多数。
-

決定・確認事項

- 評価項目は現行 29 項目をベースに作業を継続する。
 - No.18 と No.21 の扱いは、セットで再検討する方針を確認。
 - 因子名は日本版ツール独自の名称を使用する方向で意見が一致。
 - ただし GFSI の五側面との対応表は、ガイダンス資料に掲載する。
 - 設問文の主語・文体統一など文言精査を今後実施する。
 - 3 月最終報告会に向け、2 月中にツールを公開できる状態にする目標を再確認。
-

両チームにおける今後の対応（アクション）

- 事務局：
 - 研究会で GFSI 5 側面とのマトリクス案をガイダンス資料向けに整備後、農水省 HP に掲載。
- ブラッシュアップチーム：
 - 29 項目の因子への振り分け精査（特に複数因子にまたがる項目）。
 - 設問文の主語・文体統一案の作成。
 - No.18・21 の扱いについて案を作成して次回提示。
- ガイダンスチーム：

- 因子名とGFSI側面の関連説明文案を作成。
- マトリクス表の初版提示準備。
- 全体：
 - 2月中のツール公開に向け、早期に作業を進める。
 - 次回研究会で進捗・調整事項を共有。

以上